

- 問1 「朝倉孝景条々」や「甲州法度次第」といった分国法の中に見られる、戦国大名による統治の具体的な特徴として正しいものを一つ選びなさい。
(2023年 福井県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--------------------------------------|---|---|
| 1. キリスト教を保護し、ヨーロッパとの自由貿易を領国内の全ての商人に奨励した | 2. すべての土地と人民は天皇に帰属するという公地公民の原則を再確認した | 3. 家柄に関わらず有能な人材を登用するルールや、許可なく城を構えることを禁止する規定を設けた | 4. 将軍の許可なく大名同士が婚姻を結ぶことを禁じ、参勤交代の義務を明文化した |
|---|--------------------------------------|---|---|
- 問2 戦国時代の九州を代表する大名で、現在の府内（大分市）を拠点にキリスト教を保護し、有馬晴信や大村純忠とともにローマ教皇のもとへ「天正遣欧少年使節」を派遣した人物は誰ですか。
(2025年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 今川義元 | 2. 北条氏康 | 3. 朝倉義景 | 4. 大友宗麟 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問3 戦国大名の朝倉氏が定めた「城郭の構築に制限を設ける規定」や、伊達氏が定めた「年貢を納めない農民への処罰に関する規定」など、当時の大名が独自に定めた法典が持っていた共通の目的として、最も適切なものはどれか。
(2024年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|------------------------------------|
| 1. 室町幕府の将軍から授かった権限を、領民に広く知らせるため | 2. 領国内の秩序を安定させ、軍事・経済の両面から支配体制を強化すること | 3. すべての裁判を天皇や公家が行うという原則を確立すること | 4. 土地をすべて公有とし、農民に平等に配分して税収を安定させること |
|---------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|------------------------------------|
- 問4 15世紀後半、ポルトガルの支援を受けたバスコ・ダ・ガマが、リスボンを出発してアフリカ大陸南端の喜望峰を経由し、到達に成功した地域はどこですか。
(2020年 新潟県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|-------|----------|--------|
| 1. 北アメリカ | 2. 中国 | 3. カリブ諸島 | 4. インド |
|----------|-------|----------|--------|
- 問5 戦国時代において、武田氏や今川氏などの戦国大名が、自らの領国内を統治し、家臣や民衆を直接支配するために独自に制定した法律を何というか。
(2021年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|----------|----------|----------|
| 1. 分国法 | 2. 公家諸法度 | 3. 御成敗式目 | 4. 武家諸法度 |
|--------|----------|----------|----------|
- 問6 「甲州法度之次第」と呼ばれる分国法を制定し、領国内の統治を強化した戦国大名は誰か。
(2021年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 上杉謙信 | 2. 足利義満 | 3. 武田信玄 | 4. 織田信長 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問7 戦国大名が「分国法」を制定した目的や、その社会的な背景を説明した文として最も適切なものはどれですか。
(2016年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 幕府の法に基づく全国統一的な裁判基準を確立し、朝廷の権威を回復させるため。 | 2. 裁判の迅速化を図るため、過去の判例を整理して評定衆の裁決の基準を明確にするため。 | 3. 下剋上の世において、家臣同士の私的な争いを禁じ、領国内の秩序を安定させて支配力を強めるため。 | 4. 徳川將軍家への忠誠を誓わせ、大名による勝手な婚姻や城の補修を制限して謀反を防ぐため。 |
|--|---|---|---|
- 問8 1543年に種子島へ伝来した鉄砲が、戦国時代の日本において急速に普及し、合戦のあり方を大きく変えた主な要因として正しいものはどれですか。
(2020年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------------|--|---|--|
| 1. 室町幕府が鉄砲の製造を独占し、全国の大名に無償で配布したため | 2. ポルトガル人から輸入するのみで、国内の需要をすべてまかなうことができたため | 3. キリスト教の布教を許可した大名に対してのみ、スペインが鉄砲を贈呈したため | 4. 堺や国友などの都市の職人が高い技術を用いて、鉄砲の国内生産を可能にしたため |
|-----------------------------------|--|---|--|
- 問9 1543年にポルトガル人を乗せた船が漂着し、日本に初めて鉄砲が伝えられた場所はどこですか。その地理的な位置関係を示す説明として正しいものを選んでください。
(2024年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------------------------|------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| 1. 九州地方の北部に位置し、大陸との交流が盛だった福岡県の博多 | 2. 九州地方の南端に位置する鹿児島県の離島である種子島 | 3. 四国地方の南部に位置し、太平洋に面した高知県の土佐清水 | 4. 関東地方の東部に位置し、東京湾の入り口にあたる千葉県の大網 |
|----------------------------------|------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
- 問10 日本の歴史において、守護・地頭の設置や御成敗式目の制定が行われた時代（鎌倉時代）の様子を説明した記述として、ふさわしくないものはどれですか。
(2018年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|----------------------------|------------------------------------|
| 1. 実力のある下の者が上の者を倒して地位を奪う、下剋上の風潮が広がった。 | 2. 元軍の侵攻に対し、九州の御家人たちが防戦にあたった。 | 3. 北条氏が執権の職に就き、幕府の政治を動かした。 | 4. 将軍と御家人が、土地を媒介とした御恩と奉公の主従関係を結んだ。 |
|---------------------------------------|-------------------------------|----------------------------|------------------------------------|
- 問11 1549年にフランシスコ・ザビエルが日本に上陸し、キリスト教を伝えた背景には、当時のヨーロッパにおける宗教情勢が深く関わっています。キリスト教が日本に伝えられるに至った直接的な背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。
(2020年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 宗教改革によるカトリック教会の勢力衰退に対し、新たな信者を獲得するためにアジアなど海外への布教が重視された。 | 2. ルターが自身の教えを世界に広めるために組織を設立し、その活動の一環として日本が最初の布教先に選ばれた。 | 3. 十字軍の遠征が失敗に終わったことで、キリスト教徒がイスラム教勢力に対抗するための同盟国を東アジアに求めた。 | 4. ルネサンスの進展によって人間中心の考え方が広まった結果、宗教の枠組みを超えた世界規模の文化交流が推奨された。 |
|---|--|--|---|
- 問12 15世紀後半に京都で始まった大規模な戦乱をきっかけに、室町幕府の権威が衰え、下の身分の者が実力で上の身分の者を倒して地位を奪うという社会的な風潮が広まりました。この風潮を漢字3文字で何といいますか。
(2020年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|--------|--------|
| 1. 惣一揆 | 2. 執権政治 | 3. 下剋上 | 4. 徳政令 |
|--------|---------|--------|--------|
- 問13 室町時代の後半から戦国時代にかけて、各地で戦国大名が勢力を伸ばした背景として最も適切な説明はどれですか。
(2024年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 特定の家柄のみが政治を独占する「門閥政治」が行われ、それに反発した新興勢力が台頭したため | 2. 幕府の権威が衰え、身分の低い者が実力で上の者をしのぐ「下剋上」という風潮が強まったため | 3. 朝廷の権威を重んじる「尊王攘夷」の考えが広まり、幕府を打倒する勢力が現れたため | 4. 幕府が各地の有力な農民に領地を分け与え、新しい支配層として育成したため |
|---|--|--|--|
- 問14 室町時代後半から戦国時代にかけて見られた、身分や立場が下の者が、実力によって上の者に打ち勝ち、その地位を奪う社会的な風潮を何といいますか。
(2016年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|----------|---------|
| 1. 下剋上 | 2. 一向一揆 | 3. 御成敗式目 | 4. 尊王攘夷 |
|--------|---------|----------|---------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 家柄に関わらず有能な人材を登用するルールや、許可なく城を構えることを禁止する規定を設けた	戦国大名は生き残りをかけて、実力主義による人材登用（朝倉孝景条々など）や、家臣が勝手に拠点を作って反乱するのを防ぐための城郭の制限を行いました。選択肢にある「婚姻の禁止や参勤交代」は江戸時代の武家諸法度の内容であり、「公地公民」は飛鳥時代の制度です。
問2	答え 4 大友宗麟	大友宗麟は豊後（大分県）を本拠地とした有力な戦国大名です。フランシスコ・ザビエルの布教を認めて以降、キリスト教を厚く保護し、海外貿易を積極的に行いました。1582年には、伊東マンショら4人の少年をローマへ派遣する使節の送り主の一人となりました。
問3	答え 2 領国内の秩序を安定させ、軍事・経済の両面から支配体制を強化すること	戦国大名は、家臣が勝手に城を築くことを制限して反乱を防止したり、年貢の徴収を徹底して軍事費を確保したりすることで、領国の支配を確かなものにしようとした。分国法は、戦国時代を勝ち抜くための「富国強兵」を目指した統治の仕組みです。幕府の権威が及ばなくなった時代背景を反映しています。
問4	答え 4 インド	ポルトガルは香辛料などの直接取引を目指し、大西洋を南下してインドへ至る東回り航路の開拓を進めました。1498年にバスコ・ダ・ガマがカリカットに到達したことで、イスラム商人やイタリアの諸都市を通さずにアジアと直接貿易を行う道が開かれました。
問5	答え 1 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代において、各地の戦国大名が自らの実力で領国を治めるために定めた独自の法を分国法（家法）と呼びます。これによって、大名は幕府の法に縛られることなく、独自のルールで領内を統制しました。
問6	答え 3 武田信玄	甲斐（現在の山梨県）を拠点とした武田信玄は、領国支配を確かなものにするため「甲州法度之次第」を定めました。この中には家臣団の統制だけでなく、大名自身の行動を制約する条文も含まれており、領国全体で法による秩序を作ろうとした点が特徴です。
問7	答え 3 下剋上の世において、家臣同士の私的な争いを禁じ、領国内の秩序を安定させて支配力を強めるため。	戦国時代、家臣同士の武力衝突は領国の弱体化につながるため、戦国大名は「喧嘩両成敗」などの規定を盛り込んだ分国法を定め、私闘を禁じました。自らの領地を「一国」として独立して統治しようとする大名の姿勢が、この法の制定に表れています。選択肢にある徳川氏による大名統制は江戸時代の武家諸法度、判例の整理は江戸中期の公事方御定書の説明です。
問8	答え 4 堺や国友などの都市の職人が高い技術を用いて、鉄砲の国内生産を可能にしたため	種子島に伝来した鉄砲は、当時の優れた鍛冶技術を持っていた堺（大阪府）や国友（滋賀県）の職人たちの手によって、すぐに構造が研究され「国内生産」が行われるようになりました。これにより、高価な輸入品に頼ることなく大量の鉄砲を確保することが可能になり、戦国大名の間に広く普及しました。輸入のみに依存していたとする説は、当時の広範な普及の実態とは異なります。
問9	答え 2 九州地方の南端に位置する鹿児島県の離島である種子島	1543年、九州の南にある種子島にポルトガル人が漂着した際、島主の種子島時堯が彼らから火縄銃を購入したことで日本に鉄砲が伝来しました。この出来事をきっかけに、日本国内でも鉄砲の製作が行われるようになり、全国へ普及していきました。
問10	答え 1 実力のある下の者が上の者を倒して地位を奪う、下剋上の風潮が広がった。	鎌倉時代は将軍と御家人の主従関係や、御成敗式目による武士社会の秩序が重んじられた時代です。設問にある「下剋上」は、室町時代末期から戦国時代にかけて顕著になった社会風潮であり、鎌倉時代の特徴ではありません。この時期には応仁の乱などをきっかけに幕府の権威が衰え、実力主義の時代へと移行していきました。
問11	答え 1 宗教改革によるカトリック教会の勢力衰退に対し、新たな信者を獲得するためにアジアなど海外への布教が重視された。	ルターによる宗教改革の影響で、ヨーロッパ内でのカトリック教会の勢力が弱まりました。これに危機感を抱いたカトリック側は、失った勢力を補い、教勢を回復させるために、大航海時代でつながったアジアなどの海外諸国へ積極的に進出しました。イエズス会の活動はこの一環であり、日本へのキリスト教伝来もその大きな流れの中に位置づけられます。
問12	答え 3 下剋上	応仁の乱によって幕府の統制力が弱まると、身分秩序が崩れ、実力主義の社会へと変化しました。「下の者が上の者をしのぐ」という意味のこの言葉は、室町時代後半から戦国時代を象徴するキーワードとなりました。
問13	答え 2 幕府の権威が衰え、身分の低い者が実力で上の者をしのぐ「下剋上」という風潮が強まったため	14世紀から15世紀にかけての年表をたどると、幕府の統制力が弱まると同時に、各地で実力主義による勢力争いが激化していることがわかります。この「下剋上」の動きによって、従来の守護などの家柄に関係なく、軍事力や政治力のある者が戦国大名として自立していきました。
問14	答え 1 下剋上	応仁の乱以降、幕府や守護の権威が衰えたことで、家柄よりも軍事力や政治力といった実力が重視されるようになりました。家臣が主君を倒して実権を握るといったこの動きは、戦国時代の社会を象徴する現象です。選択肢にある「尊王攘夷」は幕末の思想、「一向一揆」は浄土真宗の門徒らによる抵抗運動を指します。